

創世記3 創世記1章1節～13節

「第1日目～第3日目」

イントロ：

1. 創世記1：1と1：2の間にギャップがあった。
 - (1) 神の創造（1節）
 - (2) サタンの墮落と、被造の世界に下った裁き（ギャップ）
 - (3) 裁かれた状態の被造の世界（2節）
 - (4) 神の霊による再生の兆し

2. きょうの箇所から、創造の6日間が始まる。
 - (1) 「トーフー」とは、カオスのこと。
 - (2) 「ボーフー」とは、虚しい状態のこと。
 - (3) 6日間の創造は、厳密には修復、再生のことである。
 - ① 「トーフー」の修復が、第1日目から第3日目の業
 - ② 「ボーフー」の修復が、第4日目から第6日目の業
 - (4) きょうは、第1日目から第3日目を取り上げる。

3. 創世記1章の「日」について。24時間がどうかという問題。
 - (1) 「日（ヘブル語でヨム）」という語は、必ずしも24時間を表しているわけではない。
 - (2) しかし、数字とともに使われる場合は、必ず文字通りの24時間を表している。
 - (3) 「夕があり、朝があった」という表現は、「日」が24時間であることを示している。
 - (4) 安息日の規定は、神が7日目に休まれたことを土台として後に出てくるもの。
 - (5) 創世記1：14を見ると、すでに日、月、年という時間の数え方が存在している。
 - (6) 創世記1章を厳密に解釈すると、「日」とは24時間のことであるとの結論に到達する。

4. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。
 - (1) 信仰の目的は何か。
 - (2) 聖書が書かれた目的とは何か。

天地創造の記事は、信仰の目的が何か、聖書が書かれた目的が何かを私たちに教えている。

I. 第1日目(創世記1:3~5)

はじめに

- (1) 第1日目には7つのステップが見られる。第2日目以降も、それが繰り返される。
 - (2) ここから、創世記1章1節と2節とは、第1日目以前の状況であることが分かる。
1. 神がことばを発する。「神は〇〇と言われた」
 - (1) 神はことばによって天地を創造された。
 - (2) ヨハネ1:1~3と合致する。
 - (3) ロゴス(第二位格の神)が、父なる神、聖霊とともに、創造の業に参加。
 - (4) 詩篇33:6と合致する。
 2. 神のことばの内容は宣告(命令)である。
 - (1) 「〇〇あれ」という動詞は、ヘブル語では「イェヒ」。
 - (2) 聖書に記された神の最初のことば。
 - (3) 神の御名である「ヤハウエ(ヘブル語では4文字)」と深い関係のある語。
 - (4) 第1日目の宣告は、「光あれ」というもの。
 3. 神の宣告が成就する。「すると〇〇があった」
 - (1) 「すると光があった」
 - (2) この光は、太陽光ではない。
 - (3) 太陽が作られるのは第4日目のことだから。
 - (4) この光は、暗闇に輝くシャカイナグローリー(神の栄光)のこと。
 - (5) IIコリント4:6参照。
 4. 区別するという神の行為が続く。
 - (1) 「神は光とやみとを区別された」
 5. 命名(あるいは祝福)という神の行為が続く。
 - (1) 「神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた」
 - (2) 命名するという行為は、命名する対象に対して権威を持っていることを表している。
 6. 完成したものに対して神の評価が為される。

- (1) 「神は見て、良しとされた」
- (2) 第1日目の場合は4番目に登場するが、第2日目以降は6番目に登場。

7. 締めくくりのことば

- (1) 「夕があり、朝があった。第1日」
- (2) ユダヤ暦では、1日は夕から始まる。

II. 第2日目（創世記1：6～8）

1. 神がことばを発する。「神は仰せられた」。
2. 宣告（命令）
 - (1) ここでも、「〇〇あれ」という動詞はヘブル語の「イエヒ」。
 - (2) 宣告の内容は、「大空が水の真ただ中にあれ。水と水との間に区別があれ」。
3. 神の宣告が成就する。「そのようになった」。
4. 区別するという神の行為が続く。
 - (1) 「神は大空を造り、大空の下の水と、大空の上の水とを区別された」
 - (2) 「大空」とは、第一の天と呼ばれるもの（間が息をする空間、鳥が飛ぶ空間）。
 - (3) 地球を覆っていた塩水の淵とガス状の霧とが分離され、その間に「大空」が現れた。
5. 命名（あるいは祝福）という神の行為が続く。
 - (1) 「神は大空を天と名づけられた」
6. 神の評価
 - (1) 第2日目に関しては、「神は見て、良しとされた」という言葉が出てこない。
 - (2) ユダヤ教のラビ（ラシ）の説明によれば、第2日目の業は完成していない。
 - (3) 第3日目になって完成する。第3日目には、「良しとされた」が2度出てくる。
7. 締めくくりのことばが出てくる。
 - (1) 「夕があり、朝があった。第2日」

Ⅲ. 第3日目(創世記1:9~13)

1. 神がことばを発する。
2. 宣告(命令)
 - (1)「天の下の水が一所に集まれ。かわいた所が現れよ」
 - (2)塩水で覆われた地球に変化を加えた。
3. 神の宣告が成就する。「そのようになった」
4. 区別するという神の行為が続く。
 - (1) 渴いた地と水のある所が区別されている。
5. 命名(あるいは祝福)という神の行為が続く。
 - (1)「神はかわいた所を地と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた」
 - (2) 神による命名は、第3日目で終わる。
6. 完成したものに対して神の評価が為される。「神はそれを見て良しとされた」
7. 2度目のサイクル
 - (1) 第3日目の場合は、もうひとつの創造の行為が為されている。
 - (2) 宣告の内容
 - ①口語訳聖書がいい。「地は青草と、種をもつ草と、種類にしたがって種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえさせよ」
 - (3) 神の宣告は、ただちに成就した。
 - (4) この場合の創造は、直接的なものではなく、間接的創造。
 - (5) 地から生じた植物は3種類あったと考えるのがよいと思う。
 - ①一般的な草の類と穀類
 - ②香草、野菜類
 - ③果樹の木々
 - (6)「種類に従って」種を残したり、実を結んだりした、
 - ①これは、植物界の「種の垣根」である。
 - (7) 3日目の場合は、「神はそれを見て良しとされた」という表現が、2度出てくる。
8. 締めくくりのことばは、「夕があり、朝があった。第3日」。

結論

1. 信仰の目的は何か。
 - (1) 第1日目は、シャカイナグローリーで始まっている。
 - (2) 神の最初のことばは、「イエヒ」であった。
 - (3) 黙示録は、シャカイナグローリーで終わっている。黙示録22:5
(例話) 東後勝明先生の証し 洗礼を受ける際の質問

2. 聖書が書かれた目的は何か。
 - (1) 人類の救いではない。
 - (2) 神の栄光である。
 - (3) 人類の救いは、その中に含まれる。
(例話) ゴルフで「集中しなさい」と言われても分からない。
 - ①クリスチャンでない人たちは、人生における「集中」を理解できない。
 - ②クリスチャンもまた、自分中心の信仰にとどまっている限りは、これを理解できない。
 - ③集中とは、「神の栄光」、シャカイナグローリーに対して焦点を合わせることである。